

組織目標評価報告書(平成30年度)

26

部局名: 環境管理センター

部局長名: 菅 誠 治

目 標

目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組
(部局での検証とそれに対する取組)

①教育領域

①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
1. 学生及び教職員に対して、環境と安全に関する教育を実施する。 2. 学生及び教職員に対して、環境安全の啓発活動を実施する。 3. 学生及び教職員に対する環境と安全に関する教育・啓発について、手法を充実させる。	1. 学生に対して、環境と安全に関する出前講義、教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」を実施した。教職員に対しては、環境マネジメントに関する講習会を実施したが、e-Learningによる水質管理講習会は、試行に留まった。 2. 学生及び教職員に対して、環境安全の啓発活動については実施できていない。 3. 学生及び教職員に対する環境と安全に関する教育について、次年度以降の環境安全教育の体系化を環境マネジメント委員会に提案し承認された。
①-2 年度計画との関連	①-2 大学全体への貢献
年度計画【91-1】「環境マネジメント委員会は、環境マネジメント教育及び事故の未然防止推進のための取組の計画立案を行う。環境管理センターは、環境マネジメント委員会が策定した取組計画等を実施するとともに、化学物質の管理に関する教育の責任者全員受講を目指して構成員全員の意識向上を図るための取組を検討する。」に相当する。	環境マネジメント委員会が策定した環境マネジメントに関する講習会を実施したが、e-Learningによる水質管理講習会は、試行に留まった。化学物質の管理に関する教育の責任者全員受講を目指して構成員全員の意識向上を図るため、次年度以降の環境安全教育について環境マネジメント委員会に提案し、承認された。
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
①環境と安全に関する教育の実施回数と受講者数 ②環境安全の啓発活動の実施回数と内容 ③環境と安全に関する教育・啓発手法の充実内容	①出前講義:実施回数10回、受講者数延べ552名。教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」:講義8回、受講者数167名。環境マネジメントに関する講習会10回、受講者数108名。②環境安全の啓発活動については実施できていない。③学生及び教職員に対する環境と安全に関する教育について、次年度以降の環境安全教育の体系化を提案、承認。

②研究領域

②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
科学研究費及び共同研究費を始め、競争的資金の獲得に努める。	個人研究に関する競争的資金を獲得した。組織としての獲得に向けた取組みを今後の課題としたい。
②-2 年度計画との関連	②-2 大学全体への貢献
年度計画【79-3】「研究推進学官連携機構は、国際研究ネットワーク構築事業等の競争的資金に応募できる学内体制を強化するため、科学研究費助成事業の国際共同研究加速基金などへの応募を奨励する。また大型研究プロジェクトの獲得を目的に、URAと協力して、戦略的に応募事業と申請課題を選定する。」に相当する。	競争的資金の獲得に関しては貢献しているが、関連組織等と連携及び戦略的に応募事業と申請課題を選定する体制には至っていない。
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
科学研究費及びその他の競争的資金の申請数及び採択件数・金額。	申請数は、科学研究費応募可能者全員(2件)及びその他競争的資金1件。採択・金額は科学研究費1件(1,900千円)及びその他競争的資金1件(496.5千円)。

③社会貢献(診療を含む)領域

③-1 目標	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
1. 環境保全、省資源対策及び環境改善等に関する技術や知見を社会に還元する方策を推進する。 2. 国及び地域の行政等に関わる審議会等に参画し、社会貢献を果たす。	1. 環境保全、省資源対策及び環境改善等に関する技術や知見を社会に還元する方策について検討することが課題である。今後は、SDGs達成に向けた活動などの目標設定について検討する。 2. 岡山県における委員として参画した。
③-2 年度計画との関連	③-2 大学全体への貢献
中期計画46①「実践型社会連携教育プログラムの推進やカリキュラム改革等により、社会から求められる人材の育成を行う。また、実践型社会連携教育プログラムに毎年1,000人以上の受講が可能となる体制を整える。なお、地方自治体、経済界との関係を深化させ、連携のための協議体の設置を目指し、大学から社会への更なる知の還元を進める。」に相当する。	組織として年度計画及び中期計画に基づく活動についての実績はないが、SDGs達成に向けた活動として「サステイナブル・キャンパスの構築」について提示した。また、大学コンソーシアム岡山の活動である「岡山大学エコナイト2018」を共催するとともに、環境ミニ講演集会の講師を担当した。
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
①社会に還元する方策の推進方法・内容 ②国及び地域の行政等に関わる審議会等への参画数	①SDGsの達成に向けた取組みとして「サステイナブル・キャンパスの構築」の提示、「岡山大学エコナイト2018」の共催及び環境ミニ講演集会講師を担当。 ②行政関係の審議会(岡山県)への参画1件。

④センター業務

④-1 目標	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
1. 環境マネジメント委員会に対して、環境マネジメント教育及び事故の未然防止推進のための取組の計画立案を行う。 2. 環境マネジメント委員会が策定した取組計画等を実施するとともに、化学物質の管理に関する教育の責任者全員受講を目指して構成員全員の意識向上を図るための取組を検討する。	1. 環境マネジメント委員会に次年度以降の環境安全教育の体系化について提案した。事故の未然防止推進のための取組の計画立案は今後の課題とする。 感星物質研究所で発生した廃液漏洩事故対応を指示したほか、再発防止のため全学に対し、調査依頼及びその結果についての取りまとめを行った。 2. 環境マネジメント委員会が策定した環境マネジメントに関する講習会を実施したが、e-Learningによる水質管理講習会は、試行に留まった。構成員全員の化学物質管理に関する意識向上のため、体系化された e-Learningによる講習会を検討し、次年度実施を計画している。
④-2 年度計画との関連	④-2 大学全体への貢献
年度計画【91-1】「環境マネジメント委員会は、環境マネジメント教育及び事故の未然防止推進のための取組の計画立案を行う。環境管理センターは、環境マネジメント委員会が策定した取組計画等を実施するとともに、化学物質の管理に関する教育の責任者全員受講を目指して構成員全員の意識向上を図るための取組を検討する。」に相当する。	学生への講義及び教職員への講習会等といった環境安全教育を体系化することにより、受講対象者及び講習内容を明確とし、構成員全員の意識向上を図る。
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
①環境マネジメント委員会への企画提案数 ②取組計画の達成度及び達成状況 ③化学物質の管理に関する教育の責任者の受講率及び構成員意識向上のための取組策の検討状況	①環境マネジメント委員会への企画提案数1件(環境安全教育の体系化)。 ②環境マネジメント委員会が策定した10件の講習会の内9件実施、ただし、e-Learningによる水質管理講習会は試行に留まった。参加人数は昨年度より微増(103⇒108人)。 ③環境マネジメント委員会に環境安全教育の体系化及び次年度計画を提案。

⑤管理運営領域	
⑤-1 目標 組織運営の改善及び業務の効率化を図る。	⑤-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 新しい組織体制を構築したが、十分機能しなかった。このため、組織体制の見直しを行い、センター規程等の改正を行う。また、業務の効率化について検討した。
⑤-2 年度計画との関連 年度計画【72-1】「教員活動評価、職員勤務評価、役員評価及び部局組織目標評価を引き続き確実かつ適正に実施する。部局における自己評価については、部局長選考時に公表した所信の達成度を評価する所信評価を新たに実施する。」に相当する。	⑤-2 大学全体への貢献 教員活動評価について、センター業務の領域の活動に重点をおいた見直しを行った。
⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標 組織運営の改善及び業務の効率化に関する企画提案状況並びに実施状況。	⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 新しい組織体制を構築したが、組織運営の改善に至らなかった。センター運営委員会に、センター規程等の改正を提案。業務の効率化について検討したが、提案及び実施まで至らなかった。
【総括記述欄】	
<p>教育活動においては、学生に対して出前講義及び教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」を実施し、教職員に対しては環境マネジメントに関する講習会を実施したが、e-Learningによる水質管理講習会は、試行に留まった。来年度は、体系化された教育構成に従い、内容の見直しを行ったうえで実施する。</p> <p>研究領域においては、個人研究に関する外部資金の獲得はあったが、今後はセンター業務活動に関連した内容について取り組む。</p> <p>社会貢献においては、大学コンソーシアム岡山の活動である「岡山大学エコナイト2018」を共催するとともに、環境ミニ講演集会の講師を担当した。また、行政関係の審議会への参画があった。今後は、SDGsの達成に向けた「サステイナブル・キャンパスの構築」に関する取組みを推進することで、社会の先導的役割を果たす。</p> <p>センター業務においては、環境マネジメントに関する講習会を実施したが、中期計画に掲げる目標に比べて受講者数が少ないことが問題であった。その対策として、次年度以降は、環境安全教育を体系化し実施する。</p> <p>管理運営においては、新しい組織体制を構築したが、十分機能しなかった。今後は、業務担当者毎の責任範囲を明確化するとともに、業務スケジュールを厳格に管理し、着実に実行することで改善を図る。</p>	